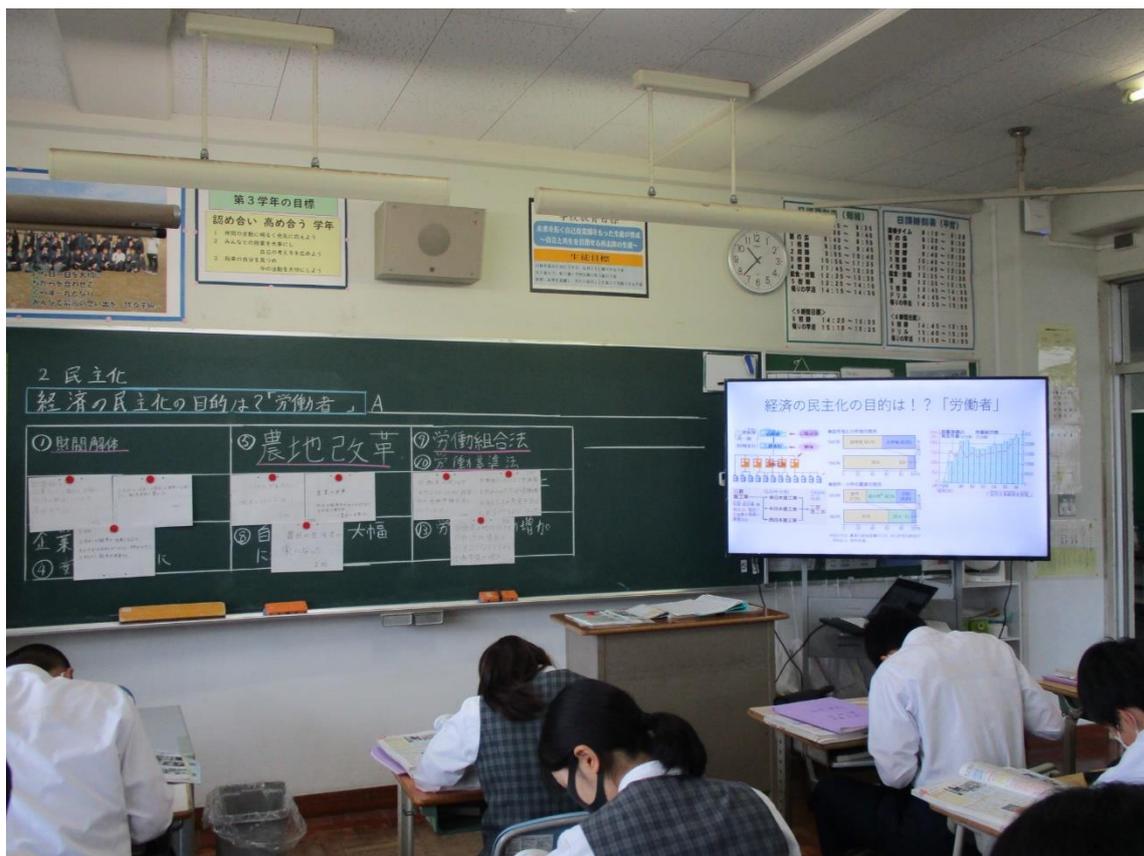


第71次印場教育研修会  
(社会科教育・中学校)

基礎基本の定着を図り、ICT等の活用による視覚化を通し、  
主体的に学び自ら課題を解決する力を育成する。



佐倉市立西志津中学校  
岡田 浩嗣

## 1 研究主題

基礎基本の定着を図り、ICT等の活用による視覚化を通し、主体的に学び自ら課題を解決する力を育成する。

## 2 主題設定の理由

### (1) 中学校学習指導要領より

中学校学習指導要領では、総則第1「中学校教育の基本と教育課程の役割」2(1)に「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」と述べている。(2)では「道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること」が求められている。第2教育課程の編成2(1)では、「生徒の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう・・・」や、第3教育課程の実施と学習評価1(3)では、「・・・各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実に努めること」が重要と指摘されている。

中学校指導要領(平成29年告示)解説－社会編－において、第1章総説2「社会科改訂の趣旨及び要点」(1)改訂の趣旨②(ア)基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得では、「何を理解しているか・何ができるか」にとどまることなく、「理解していること・できることをどう使うか」を意識した指導が求められている。また、(イ)「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成に至っては、「社会的な事象について考察する中で「知識及び技能」の習得につながったり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する中で、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度が生まれ、「学びに向かう力、人間性」が涵養されたりすることを考えれば、「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力」の育成は、「知識及び技能」の習得、「学びに向かう力、人間性等」の涵養とともに資質・能力の三つの柱を育成に資することが期待されている。」と述べている。また、第3章「指導計画の作成と内容の取り扱い」2内容の取り扱いについての配慮事項(2)では、「情報の収集、処理や発表などに当たっては、・・・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追求や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること」と指摘されている。

そこで本校社会科では、基礎基本の学力の定着を図るとともに、ICT 機器等を用いた視覚化のある学習により主体的・対話的な深い学びを目指し、生徒自ら課題や問題を解決する意識を高めるような授業の在り方を研究主題に設定した。

## (2) 印教研社会科研究主題より

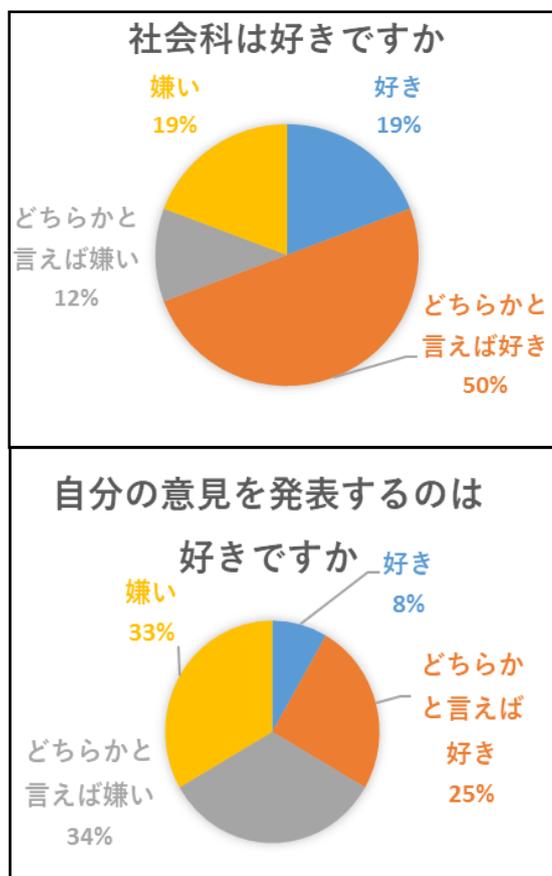
よりよい社会の実現に寄与する『生きる力』を培う社会科学学習  
～自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

学習指導要領にあるように、社会科の目標である「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」を根拠として設定されている。そのためには、グローバル化社会において必要とされる社会参画力を育成しなければならない。また、生徒が直面する社会的事象はより複雑化し、身近な問題として迫ってきている。変化の激しい社会に対し、生徒が自ら関わりを持ち社会的な課題に直面したときに、その解決を図る「生きる力」を身につけさせることを視野に入れ、本研究を進めていきたい。

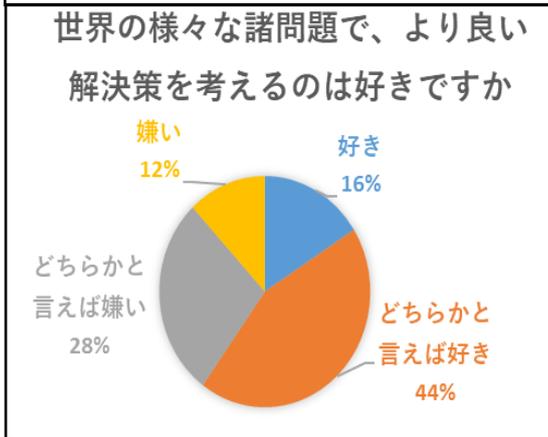
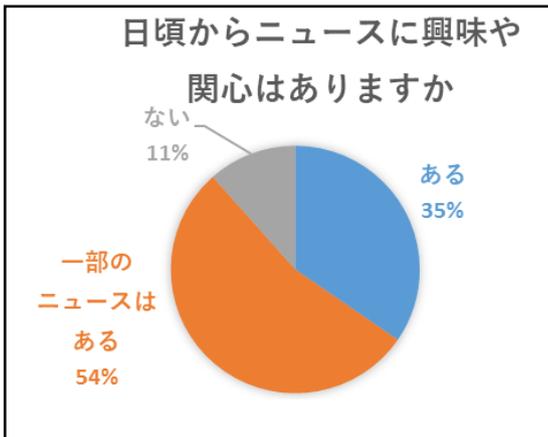
現代社会は情報があふれ、疑問が生じた際にインターネットを開けば、答えはすぐに見つかる。しかしその答えに対し、疑うこともなく、情報を信じてしまう傾向がある。情報に対し、常に受け身の姿勢では自ら課題を見いだしているとはいえないであろう。自ら課題を見いだす力を培うために、本やインターネットを複合的に使用し様々な角度から調べさせる。そうすることで、社会的事象に対する思考力判断力を高めることができると考えた。また、対話的な活動を取り入れることで、自分の意見をより深めることができると思われる。

## (3) 本校生徒の実態から

本校は佐倉市西志津地区に学区を持ち、昭和63年4月5日に志津中・上志津中より分離・統合という形で開校した。



現在の西志津中学校は、『未来を拓く自己肯定感をもった生徒の育成』～自立と共生を目指せる西志津の生徒～をめざす生徒像としては、①自他を認め大切にできる、心身ともに健やかな生徒②自ら進んで、粘り強く学習活動に取り組む生徒③挨拶・返事を意識し、当たり前のことを進んで実践できる生徒であり、3つを目標として日々活動に励んでいる。本校の生徒は西志津地区と上志津地区から進学してくるが、現在は西志津小学校からの進学が大半で、ほぼ1小1中となっている。現在は3学年とも4学級、特別支援学級1クラスとなっている。全校生徒数は名と佐倉市でも平均的な生徒数となっている。生徒の実態を把握するためにアンケート(現 3学年145名)を実施したところ、社会科学学習を「好き」「どちらかと言えば好き」と、好意的に捉えている生徒の割合は約70%となり、学年全体としては社会科を好む生徒の割合が高かった。一方「嫌い」と捉えた生徒も約20%であった。嫌いな理由としては、「覚えることが多い」が圧倒的に多く、知識を定着させる教科であると捉えていた。日頃からニュースに「興味ある」「一部のニュースは興味がある」と答えた生徒の割合



は90%に達した。調べる方法としては、テレビやインターネットがほぼであった。自分の意見を発表するのを「嫌い」「どちらかと言えば嫌い」と捉えた生徒の割合が70%ととても多く、理由は「自信がない」「人前で話すのが苦手」という生徒が多かった。世界で起きている様々な問題の解決策を考えることが「好き」「どちらかと言えば好き」と捉えた生徒が約60%とあまり高くない数値だった。このような実態を踏まえると、生徒は世間一般で起こっている事象に対する認知度は高いながらも、自分たちの生活と直接結びつきを持つというイメージが少ないのではないかと予想されると同時に、その事象の課題解決方法を考え発表できるようにすることが課題であると考え。そこで、自分の考えをまとめさせ、表現できる活動を多く取り入れる授業実践を行い、生徒1人1人が自信を持って発表できる力を養っていきたい。具体的な方法としては、授業を視覚化するために大型モニターを用いること。また、学習課題を意識させ、振り返りを行うことである。そうすることで教科書や資料集、地図帳を用いて、主体的に課題を解決する意識を高めさせられるのではないかと思われる。さらに調べたことをまとめ発表させ、それに対話的な活動を取り入れることで、他者の意見と自分の意見を比較し、多面的多角的に考察できるようになりより深い学びにつながるのではないかと考え本研究主題を設定した。

### 3 研究目標

様々な社会的事象に対して、ICT 機器等を用いた視覚化の観点を活かした活動を通して、主体的に自分の考えをまとめ、また、対話的な活動により他者の考えを取り入れることにより、さらに深い学びのある学習を通して、自ら課題を見つけ、解決していこうとする姿勢を身に付けさせる。

### 4 研究仮説

#### 仮説1

ICT 機器を用いた視覚化・焦点化のある学習活動より、生徒の課題意識が高まり、主体的に学ぶ姿勢につながるであろう

#### 仮説2

学習課題を焦点化・共有化することで、対話的な話し合い活動を取り入れることで、他者の意見を聞き、自分の考えをより深めることができるだろう。

## 5 研究方法と実践

### 1) 視覚化の三観点

- ・焦点化…授業のねらいや活動を絞って、具体的にすること。
  - ・視覚化…学習活動を支援するために、効果的に視覚情報を使うこと。
  - ・共有化…一人一人の学びを広げ、みんなのものにしていくこと。
- ⇒生徒の学習態度は受動的なものから主体的なものに変化する。

### 2) 深い学びのある授業

- ・時間軸という視点で学びに変容があること。
- ・見通し…生徒が意欲的になり、やる気を引き出すもの。
- ・振り返り…生徒が学習成果を確認でき、充実感や達成感を味わえるもの。
- ⇒生徒の主体的・意欲的な学習態度を養い、生徒に学びの深まりを実感させる。
- 本来であれば深い学びには主体的な学びと対話的な学びが必要不可欠ののだが、コロナ禍における今日の状況では対話的な学びが制限されるため、それに伴い主体的な学びに関しても本発表では割愛する。

#### \*感染症対策

- ・話し合いの時間をなるべく短くしている。(対話的な活動の場合は5分以内、意見交換の場合は1分30秒以内)
- ・机の向きは変えず、体のみ向きを変え、距離をとっている。
- ・ホワイトボードを使う人は班の中の書記のみとし、使用前後にアルコール消毒を行っている。

◎基礎基本の定着…小テストの実施や帰りの会でのドリル学習。

#### 方法1 視覚化のためのパワーポイントの教材化

実践1 生徒が主体的に課題を解決するための意識を高め、多面的多角的に考察し、深い学びがある活動を行うため、大型モニターを積極的に導入し、パワーポイントを用いて授業を展開する。

○単元名 世界恐慌と日本の中国侵略②欧米の情勢とファシズム

○単元の目標 世界恐慌とその影響を知る

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
5分	1. パワーポイントを用いてパリ講和会議のドイツの戦争責任を確認する。 生徒にヒトラーのイメージ確認をする。	・出欠確認及び学習用具の準備、学習環境の整備ができているか確認する。	モニター
	ドイツではなぜファシズムが広がっていったのか。(個人→班)		モニター
10分	2. 板書をワークシートに記入する		ワーク

15分	3. パワーポイントを用いて内容の説明を聞き学習課題につながる文章資料を読む。	・グラフや資料より、本時の授業のイメージをつかませ、学習課題へとつなげる。	シート モニター
5分	3 学習課題を「労働者」という語句を用いてまとめる。	・机間指導し、戸惑っている生徒を支援する。 ○教科書、資料集などをもとに、意欲的にまとめている。	
5分	4 個人でまとめたことをもとに、班で話し合い、まとめができれば答えをホワイトボードに書く。	・積極的に話し合いに参加して、班で意見をまとめるよう促す。 ○資料をもとに意欲的に発表することができたか。	ホワイトボード
5分	5 班でまとめたことを、代表者が発表する。	・発表者が発表しやすい雰囲気を作る。	ホワイトボード

方法2 学習課題の焦点化し、ホワイトボード等による共有化

実践2 本時で行う学習課題を授業の最初に確認し、大型モニターを用いて授業展開を行う。授業の最後に本時の振り返りとしてまとめを行い、4人班で意見交換をさせ、意見発表の場を設定する。その上で、発表者(指名制、挙手性)に意見を述べさせ、板書をさせ本時を振り返る。また、ホワイトボード等を用いて班の意見を共有化する。

○単元名 現代の日本と世界②民主化と日本国憲法

○単元の目標 戦後の民主化と冷戦の影響を知る

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
5分	1 パワーポイントを使用し、前時の復習を行う。	・前時の復習を行い。経済の民主化とは何だろうと問いかける。	モニター
	経済の民主化とは何だろう!? 「労働者」		モニター

7分	2 ワークシートを、資料集を用い各自で記入する	・机間支援を行い、作業が進まない生徒へ声をかける ○意欲的に調べているか。	ワークシート
5分	3 調べた内容を黒板に記入し、内容を簡単に確認する	・しっかりと発表させる	
8分	4 各班で内容を確認し、まとめる	○意欲的に話し合いに参加できているか。	ホワイトボード
5分	5 まとめた内容をホワイトボードに記入し、それぞれ班の代表者が発表する	・発表する・聴く姿勢をきちんとさせる	
	経済の民主化とは何だろう!?「労働者」	・学習課題を確認し、本時を振り返らせる	ワークシート
5分	6 本時の振り返りをまとめる	・机間支援を行い、個別に声をかける ○意欲的に取り組んでいるか。	
5分	7 まとめを発表し、確認する		

## 6 仮説の検証

### (1) 仮説1について

ICT 機器を用いた視覚化・焦点化のある学習活動より、生徒の課題意識が高まり、主体的に学ぶ姿勢につながるであろう

授業アンケートの結果からによると、「興味・関心を持つような授業の導入が工夫されていましたか」という質問に対しそう思うと答えた生徒が 42→71%に増えている。また、「一人で調べたり、考えたりする時間はありましたか。」という質問に対しては 78→92%に増えている。さらに、「社会の出来事に関心を持つようになる授業でしたか。」という質問に関しては 48→64%に増えている。このことから ICT 機器を用いた視覚化のある授業は生徒の社会科への関心を高め、主体的に学ぶ姿勢につながるであろうと言える。

### (2) 仮説2について

学習課題を焦点化・共有化することで、対話的な話し合い活動を取り入れることで、他者の意見を聞き、自分の考えをより深めることができるだろう。

授業アンケートによると「自分の発言や考えが尊重される授業でしたか。」という質問でそう思うと答えた生徒の割合は 57→67%に増え、また、「授業中、一緒に学んでいることを感じ、仲間から学びとれる授業でしたか。」という質問は 56%→86%に増えている。さらに、「授業に参加しているという実感が持てるような授業でしたか。」という質問は 59→79%に増えている。このことから、焦点化・共有化のある対話的活動は授業中の生徒の活動時間を確保し、またその活動を発表し合うことで自分の考えが肯定され、他者からの意見を聞くことで、より深い学びのある活動につながっているのではないかとと言える。

## 7 成果と課題

### ○成果

- ・毎時間大型モニターを用いて説明することで、「視覚化」がより明確になり、生徒は顔を上げるようになり、授業への集中力が高まり、主体的に学ぶ姿勢につながったと言える。
- ・ICT 機器を使用し、資料提示・説明を行い、アニメーション等を効果的に使うことができるので、資料のポイントをより焦点化できるので、生徒はわかりやすい説明を聞くことができたと言える。。
- ・学習課題を提示することで、生徒は本時の授業内容を意識しやすくなり、また、その課題をまとめようとすることで表現力が向上に務めた。
- ・班で意見交換や話し合いを行うことで、自分と級友との意見に相違に気が付き、多面的多角的考察ができ、より深い学びにつながったと思われる。また、自分の意見に自信がもてるようになり、積極的に挙手をする生徒が増えた。

### ○課題

- ・毎時間大型モニターを用いて説明することで、「視覚化」がより明確になり、生徒は顔を上げるようになったが、聞きっぱなしになることもあるので、自分で調べる時間とのメリハリが課題である。
- ・ICT 機器を使用し、資料提示・説明を行うための授業準備に時間がかかりすぎてしまう。
- ・学習課題を提示することで、授業の見通しは持てるが、本時の振り返りで「キーワード」を付けることで、解答が難しくなってしまうこともあり、振り返りにならないときもある。
- ・班での話し合い活動や意見交換の際に一人ひとりの生徒まで目が届かなく、活動に対して消極的な生徒への支援が行き届いていない。また、積極的に意見を言える生徒の発言がそのまま班の発言となることもあるので活動内容を今後も研修していきたい。
- ・アンケートは2年生の時にとった物なので、今後も視覚化の観点を活かした活動のある授業を行うためにも色々な授業実践例を調べ、研修を続けていく。
  - ・佐倉市の GIGA スクール構想によると生徒に一人一台のタブレットが配られるので、大型モニターとタブレットをどう活用していくか研修を行っていき、より良い授業を展開できるようにしたい。

## 8 参考文献

- ・『社会科授業のユニバーサルデザイン』 村田辰明 東洋館出版社
- ・『「主体的・対話的で深い学びを実現する社会化授業づくり」 北俊夫 明治図書

前期授業アンケート結果

2020年授業アンケート社会

2年生

問		そう思う	だいたい そう思う	あまり 思わない	思わない	未回答
3	興味・関心を持つような授業の導入が工夫されていましたか。	48%	42%	10%	0%	0%
4	自ら考え解決していく工夫をされた授業でしたか。	55%	41%	4%	0%	0%
5	自ら進んで粘り強く学べるよう、個に応じた支援を受けましたか。	33%	43%	16%	7%	0%
6	一人で調べたり、考えたりする時間はありましたか。	78%	22%	0%	0%	0%
7	自分の考えをみんなの前で発表する場はありましたか。	67%	28%	4%	1%	0%
8	自分の発言や考えが尊重される授業でしたか。	59%	36%	4%	0%	0%
9	授業の中で、「良いね」や「なるほど」等の、承認や称賛、励ましがある授業でしたか。	48%	29%	16%	7%	0%
10	授業に参加しているという実感が持てるような授業でしたか。	59%	28%	9%	3%	1%
11	友達の見解にらなずいたり、拍手する場面がありましたか。	74%	22%	4%	0%	0%
12	発表者に対する聴く態度を意識しましたか。	71%	28%	1%	0%	0%
13	話し合いやペア学習のある授業でしたか。	83%	17%	0%	0%	0%
14	友達の見解や考えを最後まで聞きましたか。	81%	17%	1%	0%	0%
15	授業中、一緒に学んでいることを感じ、仲間から学びとれる授業でしたか。	65%	30%	0%	4%	0%
16	本時の目標(ねらいやめあて)を明確に示された授業でしたか。	75%	20%	3%	1%	0%
17	学習の見通し(学習の流れ)が示され、わかりやすい授業でしたか。	41%	51%	6%	1%	0%
18	学習の流れや学習のポイントが書かれたわかりやすい板書でしたか。	54%	36%	7%	1%	0%
19	ICTやVTRなどの活用を図り、図や表など、資料が示され、わかりやすい授業でしたか。	62%	33%	3%	0%	0%
20	授業の最後に学習したことを振り返る発問や活動はありましたか。	32%	43%	20%	3%	0%
21	社会の出来事に関心が持つようになる授業でしたか。	48%	39%	6%	6%	0%

後期授業アンケートの結果

社会 評価	2年	2年	2年	2年
	4	3	2	1
興味・関心を持つような授業の導入が工夫されていきましたか。	71	26	2	2
自ら考え解決していく工夫をされた授業でしたか。	80	17	2	2
自ら進んで粘り強く学べるよう、個に応じた支援を受けましたか。	61	27	11	2
一人で調べたり、考えたりする時間はありましたか。	92	6	0	2
自分の考えをみんなの前で発表する場はありましたか。	76	20	3	2
自分の発言や考えが尊重される授業でしたか。	67	26	5	3
授業の中で、「良いね」や「なるほど」等の、承認や称賛、励ましがある授業でしたか。	55	32	11	3
授業に参加しているという実感が持てるような授業でしたか。	71	21	6	2
友達の意見にうなずいたり、拍手する場面がありましたか。	92	8	0	0
発表者に対する聴く態度を意識しましたか。	91	8	2	0
話し合いやペア学習のある授業でしたか。	92	8	0	0
友達の意見や考えを最後まで聞きましたか。	94	6	0	0
授業中、一緒に学んでいることを感じ、仲間から学びとれる授業でしたか。	86	14	0	0
本時の目標(ねらいやめあて)を明確に示された授業でしたか。	79	20	0	2
学習の見通し(学習の流れ)が示され、わかりやすい授業でしたか。	68	21	8	3
学習の流れや学習のポイントが書かれたわかりやすい板書でしたか。	73	18	8	2
ICT(PC、タブレット等)やVTRなどの活用を図り、図や表など、資料が示され、わかりやすい授業でしたか。	83	11	6	0
授業の最後に学習したことを振り返る発問や活動はありましたか。	64	30	6	0
社会の出来事に関心を持つようになる授業でしたか。	64	23	11	3

# 資料編



1936 イタリアがエチオピアを併合



19

1937 日独伊防衛協定



20

1937 スペイン内戦へドイツが干渉  
→ゲルニカ空襲（「ゲルニカ」…ピカソ）



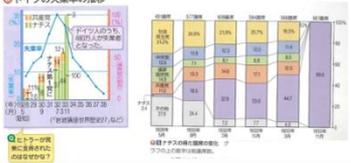
21

1938 ドイツがオーストリア、  
チェコスロバキアを併合



22

なぜヒトラーは民衆に支持されたのか？  
個人→班



23

24

○「ファシズム」についての授業風景。



・視覚化をしたことにより授業後に他班の解答を見に来たり、メモをする生徒が増えた。



・解答を内容毎にまとめると、学級によって差異が生まれた。

○生徒の解答例

- ・ヒトラーが人気だったから。
- ・ナチスの政策により失業者減ったから。
- ・ナチスの軍需産業により労働者の生活が安定したから。

◎「戦後の民主化(経済)」パワーポイント内容

○「戦後の民主化」についての授業風景。





・それぞれの班から出た答えをもとに、学習課題を考え中。

○生徒の解答例

- ・労働者の地位を上げる
- ・労働者の生活を安定させる
- ・経済を活発にする
- ・自由な農業ができるため、儲かる
- ・労働者の生活を安定させ、経済を活発にすること。

◎その他の授業例



○パワーポイント

The PowerPoint slides cover the following topics:

- Slide 1:** Quiz about world election systems (世界の選挙制度). It lists four types: 1. 選挙区制 (District system), 2. 比例代表制 (Proportional representation), 3. 中選挙区制 (Mixed system), and 4. 小選挙区制 (Small district system).
- Slide 2:** Diagram of the election process from voting to counting.
- Slide 3:** Diagram of the election process, including a section on the meaning of '死票' (dead votes).
- Slide 4:** Comparison of '死票 = 無駄になってしまふ票' (Dead votes = wasted votes) under '比例代表制' (Proportional representation) and '選挙区制' (District system).
- Slide 5:** Question: '何が問題点何だろう!? 何を危惧すべきなのかな!?' (What are the problem points? What should we be worried about?). It shows a table of votes for candidates A-E.
- Slide 6:** Line graph showing the trend of '死票率' (Dead vote rate) from 1985 to 2013.
- Slide 7:** News article about the 2017 general election (衆議院議員総選挙) held on July 16th.
- Slide 8:** Bar chart comparing the number of '死票' (dead votes) in the 2015 and 2017 general elections across different districts.
- Slide 9:** Bar chart showing the number of '死票' (dead votes) by region in the 2015 general election.
- Slide 10:** Article titled '国民の政治参加が大事' (It's important for citizens to participate in politics).
- Slide 11:** Question: '何が問題点何だろう!? 何を危惧すべきなのかな!?' (What are the problem points? What should we be worried about?). It includes a table of votes and a line graph of the dead vote rate.
- Slide 12:** Question: '何が問題点何だろう!? 何を危惧すべきなのかな!?' (What are the problem points? What should we be worried about?). It includes a table of votes and a line graph of the dead vote rate, with a note about reading the materials to identify political issues.

○生徒の解答例

**5 選挙の課題**  
**選挙の課題を考よう(3つの資料より) A**  
**と問題危惧**

① 死票の多さ

- 1 死票の多さ 5班  
表から総合の得票数のうち、一部の意見しか反映されない。  
平等な意見ではない
- 6 班  
Aさんが当選して嬉しい人より、不満な人が多いから。①
- 死票数が、当選数より多くなってしまうと、意見が反映されない人が多くなってしまうこと  
① が危惧すべき問題点。  
一 班

② 棄権の増加

- ② 国民半分の意見しか聞けていないため、総意とは言えない。  
3 班
- ② 一部の人の意見に左右される  
・正しい当選結果ではない  
・民主主義が生かされない  
2 班
- ② 棄権の増加 4 班  
国民全員が投票していないため、意見が偏る可能性があり、不公平な選挙に繋がる。

③ 若者の投票率の低さ

- ③ 若者の意見が聞けない  
・投票に行かない世代が増える  
7 班
- 8 班 ③  
・若者の意見が反映されない。  
・意見が偏る。

# 5 選挙の課題

選挙の課題を考えよう(3つの資料より)

A 国民の選挙に対する意識(主に若者)が低く、

意見が偏ってしまう。死票が多いと皆が納得できない政治になる。

## ① 死票の多さ

1 死票の多さ 5班  
よから統合の得票数の  
うち、一部の意見しか反映  
されない。  
平等な意見ではない

6班  
Aさんが選挙して嬉  
しい人が、不満な人の  
方ばかりから。①

死票数が得票数より  
多くなると、意見が  
反映されない人が多くな  
る。①  
平等な意見  
ではない。

## ② 棄権の増加

② 国民半分の  
意見しか聞けて  
いないため、総意  
とは言えない。③班

③ 一部の人の意見に  
左右される  
正しい選挙結果でない  
民主主義が生かされていない。②班

④ 棄権の増加 4班  
国民全員が選挙して  
いないため、意見が偏る  
可能性があり、不公平な  
選挙になる。

## ③ 若者の投票率の低さ ④ 一票の格差

① 若者の意見が聞けない  
投票に行かない世代  
が増える。⑦班

8班 ⑤  
若者の意見が反映  
されない。  
意見が偏る。